第５回 小川町総合振興計画審議会及び
第４回 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
議事要旨

◆日　時：平成 27 年 10 月 27 日（火）　10：00～12：00
◆場　所：リリックおがわ　２階会議室
◆次　第　　進行　政策推進課　矢島富男 主幹

１．開会
２．あいさつ　　小久保文雄 会長
３．議事　　座長　小久保文雄 会長
（１）まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について　政策推進課　山﨑浩司 課長
（２）総合振興計画前期基本計画（案）について　政策推進課　山﨑浩司 課長
（３）その他
４．その他
次回の会議日程について　政策推進課　石川俊一 主任

【議事内容】

◆人口ビジョン（案）について

高橋委員	・基本目標 1 の空き家に関する指標については、H31 年度時点で空き家の活用件数が 15 件という認識で良いか。
事務局	・そうなる。平成 27 年度からの 5 年間で様々な制度設計をしながら、最後的に 15 件を目指すものである。
高橋委員	・基本目標 3 の指標「子育て世帯数」に関する目標値が 1,500 世帯となっており、KPI「子育て世帯の減少数」の目標値は 70 世帯と記載があるが、これは現在と比較して減少は 70 世帯に抑え、トータルは平成 31 年度で 1,500 世帯を維持したいという理解で良いか。 ・「つどいの広場事業」はどのようなことをしているのか。 ・基本目標 4 の指標「交通空白地域の解消率」について、目標値が 100%と記載があるが、交通空白地域はどういうものか。
事務局	・「つどいの広場事業」は、現在パトリアおがわの児童館に併設しており、子育てをしている母親が定期的に集まり手遊びや集団での保育や子育てについての母親の疑問、悩み相談など行い交流を図っている。 ・空白地帯の解消は、地域公共交通網形成計画の策定を進めている中で、バス・鉄道ルートの直径 300～500m圏内にお住まいの方は徒歩で公共交通が利用できると想定し、その圏外にお住まいの方は徒歩での利用は難しいと考え“空白地帯”として定義していると聞いている。目標値については、今後、交通手段等を検討し、町のどこに住んでいても移動が可能であるように解消率 100%を目指したいと考えている。
高橋委員	・現在の空白地帯はどれくらいなのか。
事務局	・この場での回答は難しいが、別途策定中の地域公共交通網形成計画の中で把握していると思う。
吉田委員	・基本目標 4「まちづくり・地域活性化を推進する」に関する文章中に、“手漉き和紙産業”という表記があるが、手漉き和紙（細川紙）がユネスコに登録されたが、手漉き和紙の産業規模は、小川町の和紙産業全体で見ると微々たるものである。手漉き和紙に特化しても小川町が活性化することは決してないと思う。そのことを踏まえ、“手漉き和紙産業”ではなく“和紙産業”とした方が良いのではないか。“小川の和紙産業”を活性化することが意味のあることであり、その中の伝統的な技術は後世に伝えるべく大事なことであると捉えるべきなのではないかと思う。“手漉き”の表記を取った方が、より“和紙のまち小川”としてひとつの起爆剤になると思う。
事務局	・町としては手漉きの観点があるが、ご指摘の通り手漉き和紙に拘らず、和紙全体も取り組んでいきたいと考えている。和紙全体の中で“手漉き和紙”の分野があ

	ると捉えることは可能なので、様々なご意見を聞いた上で、最終的に訂正することは可能である。
江原委員	・４つの基本目標のそれぞれで数値目標を全て出しているが、その数値目標はどのような観点で出されたのか教えていただきたい。達成率 100%を目標にして作成されたのか、ある程度の数値でこの辺までいけば良いという考えで作成したものなのか。
事務局	・達成率については、具体的な細かい検証は難しいが、現在の様々な統計上の数値等を踏まえ、平成 72 年の目標人口 16,900 人程度を維持するための数値として捉えている。
斉藤委員	・指標について、わかりやすさを考えると現状値を記載した方が良いのではないか。
事務局	・現状値については追記を検討したいと考えている。
山岸委員	・空き家の目標値が 15 件とあるが、平成 31 年度までの 5 年間で 15 件はかなり大変なことだと思う。しかし、小川町全体で 1,590 件の空き家がある中で、15 件というのは少ないように思う。例えば、4 人家族が 15 件来た場合でも、5 年間で 60 人の転入になる。目標設定が前向きではないように感じる。様々な問題があるからこの数値に抑えてあると思うが、30 件、50 件という前向きな気持ちを見せてほしいと思う。
事務局	・PDCA サイクルを意識しながら空き家活用に取組み、平成 31 年度時点で達成状況を検証した上で、さらに高い数値を設定することになるかと思うが、15 件を超えるような設定を再検討する。
服部委員	・空き家の活用について、高齢者を一人にさせない場を提供する事例がある。地元の人達が中心となり、お茶出しなどを行い、団欒をするようなことをして高齢者を元気づけ、健康管理も行うなど、心の拠り所のような取組が全国的に広まっている。小川町ではどうかと考えると、ふれあいサロンのような事を町で行っていると思うが、空き家でそうしたことができるかどうかということが問題である。小川町でボランティアのようなことを行ってくれる人がいるか、場所を改造して行うことができるかなどの問題もあり、空き家対策、まちの活性化につながるかは難しいが、何かの参考になればと思う。
事務局	・大事な観点だと思う。地方創生において、高齢者の転出抑制の面で参考にしながら、取り組んでいきたいと思っている。
大塚委員	・基本目標 2「町における安定した雇用を創出する」の“有機農業分野への就農・参入・出店支援”について、商品開発や情報発信の観点から有機農業を大々的に展開しようという取組になっているが、これは、農地の荒地・無耕作地が多い中で有機農業を大々的に展開していくということなのか。一般の農業についてはどのように考えているのか。 ・例えば、群馬県中之条町では、有機農業でワイン作り、リンゴジュース作りなどを含め大々的に展開しサービスエリアや群馬県の直売所で販売している。このよ

	うな事を小川町では考えないのか。 ・小川町の和紙が認められて、下里・青山遺跡が新たに国指定史跡に指定されることなどを活かしながら、農産物作りを行って観光客に手軽に買ってもらうことはできないか考えている。有機農業に限らず、ネット販売などの展開の仕方をしても良いのではないかと思う。
事務局	・“有機農業分野への就農・参入・出店支援”については、現在行っている、有機農業を営んでいる方との共同による商品開発、情報発信を考えている。 ・一般の農業をどの様に展開するのかについては、この後審議いただく第５次総合振興計画前期基本計画案の中で記載しており、一般の農作物、それらを生かした流通等について、町としてさらに総合的に今後どのように展開していくかを考えている。
山岸委員	・「小川町の農業未来を考える協議会」では、農水省の補助事業として、農家ではない人も含めて農村集落活性化事業に取り組んでいる。本日、「みらい瓦版」を持ってきたので、興味がある方は見て欲しい。
杉山委員	・町の目標人口約 16,900 人の場合の人口ピラミッドは、社人研推計に比べ、相当変化すると考えて良いのか、基本的には変かわらないと捉えた方が良いのか。 ・交通手段の問題について、小川町は坂道が多く、高い所に住んでいる人もいる。車を持っているうちは良いが、持たなくなったとき非常に不安であると思う。また、電動車いすを利用する人が増えている中、斜面があるとひっくり返ってしまうなどの事故が多発している。 ・道路整備が車には便利だが、歩く人や新たな交通弱者にとっては交通手段が困るケースなので相当思い切ってしないとバランスも取れず、良いまちづくりができないと思う。
事務局	・町目標人口での人口ピラミッドは示していないが、社人研推計に比べ、年少人口と生産年齢人口が増える見込みとなっている。 ・交通体系については、現在地域公共交通網形成計画を策定中であり、協議会で新しい交通手段について検討している。具体的な交通手段については今後の審議に任せたい。 ・なお、個々の事案として、電動車いすの利用、公共交通を補完する体系についても現在協議をしている。電動車いすは少しの段差でも転倒してしまい、利用している方は自力では戻せないことで重大な事故に繋がってしまい、重度のけがに至るというデータも上がっていると聞いている。これに対しては、例えば、町が電動車いすを購入し、貸し出すなども考えられるが、具体的な所までは検討が進められていない状況にある。補完的な意味での交通手段、移動も含めて進行していく。
安藤委員	・基本目標１に掲げられている「奨学金制度の拡充による定住化の推進」について、以前に中学生に実施したアンケートで 40%くらいの子が町から出ていくと答えて

	いる中で、奨学金制度はどの程度の効果が得られるのか。まずは小川町のことを好きになってもらう教育が優先されるべきだと思う。子育て世代だが、小川町は何もないと思っている人が多い中、それを変えることは長い期間がかかることなので、すぐにでも始めた方が良いと思う。 ・基本目標 4 の KPI「まちホームページアクセス件数」について、観光面で考えた時にホームページアクセス数が参考になるのか。また、外国人が見ているかを確認するのには英語版のホームページを作った方が良いのではないか。このアクセス件数は何を目的として設定されているのかがわからない。
事務局	・教育的な取組み関しては、総合振興計画基本構想にて“小川町に愛着を育てる教育環境を目指す”という目標を掲げることについて、現在、議論を進行中である。奨学金の返済免除によりどれほどの人が小川町に留まってもらえるのかということもあるが、PDCA サイクルの中で検証等を行っていきたいと思う。 ・ホームページに関しては、現在 Google を通じて、正確ではないかもしれないが、他言語に翻訳して表示されるようになっている。目標値については観光に特化している訳ではなく、総ホームページのアクセス数となっている。なお、どのページがどれだけ閲覧されたかについては、総アクセスを集計する際に個々に出てくると思うので、表記の変更は可能かと思う。どこのページの閲覧が多く、少ないのか検証もできると考えている。
議長	・たくさんのご意見が出たが、基本的にはこの内容の通り作成することで良いか。
事務局	・ご意見、ご指摘を踏まえ修正、訂正、削除等の対応をしていく。

◆総合振興計画前期基本計画（案）について

高橋委員	・指標について、第 5 次で新たに設定した指標は何か。また、第 4 次にはあったが第 5 次で削除した指標は何か。
事務局	・指標については、第 4 次を踏襲しながらいくつかの指標を追加した形で整理を進めており、第 4 次で記載されていたものを削除したということはあまりないかと思う。
高橋委員	・新規に追加した指標を強調してもらえるとわかりやすい。
事務局	・第 4 次と第 5 次での差違が表現できるような事があれば取り組んでいきたいと考えている。
杉山委員	・義務教育について、この 5 年間を見ると、タブレットの情報端末を本格的に小学校、中学校に導入する動きが見られる。小川町の状況はわからないが、先進校はフルに利用しているところもある。教育の情報化のひとつのポイントではないかと思う。小川町でも議論されているなら、加えたら良いと思う。また、民間企業の人を引き込むことや、防災教育も重要になると思う
事務局	・高速通信網に関する対応は予算上、進めたいと思っている。文部科学省が言って

	いる通信端末を使った学習については、指導要領の変化に対応していくように考えているが、予算の関係もあり、一律にはできない可能性もある。また、防災教育については、国が求める耐震化は 100%達成していることから、今後は防災教育について言及するような内容にしたいと思っている。
高橋委員	・義務教育について、この 5 年間で学校や地域で様々なことが行われており、日常的に子どもを取り巻く環境が変わったことによる事件、事故が様々あった。文章中にいじめや不登校に関する教育問題の記載があるが、法的にはいじめ防止推進法が施行された。これは学校だけではなく保護者、地域も改善に向けてという趣旨だが、ふるさとを愛して戻ってくるということも含め、教育委員会も考えて欲しい。 ・施策体系に「確かな学力と生きる力」とあるが、“心”の問題は非常に重要視されている流れがある。その上で、「確かな学力と豊かな心」など、豊かな心は生きる力に繋がると考えられると思うので“心”の表記を入れて欲しい。また関連して、「（4）健やかな身体を育成する教育の充実」とあるが、健やかな体だけでなく、体と心が入る必要があると思う。 ・目標指標については、県の方でいじめ調査をしており、改良室などが数値目標になっている。その上で、耐震化率や不登校、朝食不摂食をなくすという指標だけではなく、いじめに関する指標を入れておくことが必要なのではないかと思う。
事務局	・心の問題も表記をする方向で考えていく。教育委員会と文言のすり合わせ等を詰めたうえで、目標内容の変更もしくは追加を考えていく。
山岸委員	・消防・防災について、地元で地震防災訓練等を行っているが、一昨年の大雪時に、近隣の助け合いで雪かきを行い、区長さんが自主的に通学路等の雪かきを行った。その後、町に積雪時の雪かきの順番に関する地図の開示を求めたが応じてもらえなかった。計画書に文言として書いてあるが、実際には機能していない。 ・また、防災倉庫、指定緊急避難場所、災害備蓄物資の整理とあるが、いざ何かあった際に、防災倉庫等の鍵を持っている人が来なかった場合はどうにもならない。近隣の助け合い、地域にあった助け合いなど特色のあることを盛り込んでほしい。
事務局	・文言については所管課と検討していく。わかりやすく、今後の指針になるように提案が出来ればと思う。
柳瀬委員	・義務教育について、これから益々インターネット社会、SNS 社会になっていき心の問題がきっかけでいじめがこれからも増えていくと思う。家庭でもそうだが、義務教育の中で「確かな学力と生きる力」に加え、心も含めてというところで、インターネットや SNS を使うところも組み込んでいただいた方が良いかと思う。これから先、高校、大学で一旦小川町を離れることになるかもしれないが、結婚して子育てする際に戻ってきたいというような心を育てて行ける様な青年期を見通した教育が必要になってくると思っている
事務局	・基本構想の中に、小川町に愛着が持てるような教育という方針は掲げていきたい

	とは思っている。その中でネットを通じてのいじめ防止に積極的に取り組みたいなど、ネット社会における心の在り方などについて、文章表現を教育委員会と詰めていきたいと思う。
杉山委員	・観光・文化について書かれているが、万葉集に全く触れていないのはなぜか。小川町には万葉集の研究者の仙覚律師（鎌倉時代の文学僧）が住んでいた。それから万葉の花カレンダー、万葉和紙はがき、(万葉集を象徴する)紫草を栽培し、展示を二日間行うなどした。奈良、京都は別格として、関東でこれだけ万葉集に関するものがそろっている所はないと思う。それだけで観光客が集まるかはわからないが、やり方によっては来ると思う。イメージ戦略としては使えると思う。工場誘致なども必要だが、文化で呼び込むのも必要だと思う。 ・紫草を栽培することは、非常に難しく絶滅危惧種になっている。何箇所かで栽培しているが、非常に難しいため、今後の事を考えて栽培を徐々に増やしていくところもあると聞いている。その辺は触れざるを得ないと思う。
事務局	・万葉集のことは仙覚律師ということで、町としては文化面、観光面で今後どのように活用していくか考えていきたいと思う。 ・紫草の栽培に関する表現がないとのことだが、どこの部分に記載するのが適切か、表現の仕方など参考にお示しいただけるのであれば教義していただけるとありがたい。
安藤委員	・広報・広聴の目標指標にホームページアクセス件数が設定され、目標値 190,000 件となっているが、創生総合戦略に記載しているアクセス件数と何が違うのか。 ・また、Google 翻訳を利用して町のホームページを見てみたが、文章自体は英語になるが画像自体は変わらないので見づらい。2020 年のオリンピックを見据えて、外国人の観光客を呼び込むことを考えているのならば、観光に特化したページを準備した方が良いのではないかと思う。
事務局	・アクセス件数については整合性をとる。 ・Google 翻訳の関係は、ホームページの管理運用の中で検討して対応して行く。
曽根委員	・上水道の目標指数について、「住民の満足度」の目標値 62%というのは低いのではないかと思う。また、下水等の処理の目標指標について、「下水道整備率」の目標値 68.2%というのも低いのではないかと思う。「水洗化率」は基準値に比べ目標値が下がっているがどういうことか。 ・また、今後巨大地震が想定されている中で、各家庭への呼びかけや備えについても強調してほしい。
事務局	・目標指標について、所管課と話し合った結果の数値になっているが検討していく。水洗化率の減少については下水道担当と話をしたいと思っている。 ・防災に関する家庭への呼びかけについては、災害時の各家庭での取り組みなどの追加項目が出来るなら、所管課と考えながら文言の整理をしたい。この場でご意見をいただければ、それを踏まえて文言の整理を検討したいと考えている。

◆その他

事務局	・次回の会期は、審議会のみの開催で日時は 11 月 26 日(木)10：00 から、リリック 2 階にて開催。 ・ご意見とご提案について、郵送、FAX、直接窓口、メールにて受け付けている。

以上

第5回 小川町第５次総合振興計画審議会、
第4回小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 合同会議　出欠簿

（10月27日）

№.	氏　名	役　　職　　等	出欠
1	小久保　文　雄	小川町商工会長	○
2	佐　藤　守　朗	埼玉中央農業協同組合理事	○
3	山　岸　幸　男	小川町区長会会長	○
4	江　原　隆　二	比企西部地区労働組合協議会長	○
5	村　上　紀　子	小川町児童・民生委員協議会長	×
6	岸　田　直　幸	小川町社会福祉協議会事務局次長	○
7	柳　瀬　安　代	小川保育園保護者会長	○
8	鈴　木　健　史	埼玉県川越比企地域振興センター東松山事務所長	×
9	斎　藤　　透	埼玉県寄居林業事務所長	○
１０	角　田　敏　夫	小川警察署長	×
１１	山　口　明　夫	小川消防署長	×
１２	瀬　川　　豊	医師	×
１３	松　本　正　生	埼玉大学社会調査研究センター長(経済学部　教授)	○
１４	吉　田　　稔	文化財保護委員長	○
１５	服　部　昌　史	NPO法人 たすけあいほっとライフ小川代表	○
１６	安　藤　和　広	NPO法人 霜里学校代表	○
１７	大　塚　頼　司	町民代表	○
１８	柿　間　栄　二	町民代表	○
１９	曽　根　美栄子	町民代表	○
２０	髙　橋　功　人	町民代表	○
２１	小　野　田　明	埼玉縣信用金庫小川支店長（代理）	○
２２	安　藤　憲　成	埼玉りそな銀行小川支店長	○
２３	村　田　静　司	武蔵野銀行小川支店長	○
２４	浦　部　充　弘	東和銀行小川支店長	○
２５	杉　山　隆　二	埼玉新聞特別編集委員	○
	福　田　弘　昌	副町長	○
	山　﨑　浩　司	政策推進課長	○
	矢　島　富　男	政策推進課主幹	○
	粟 生 田 寿 彦	政策推進課主席主査	○
	石　川　俊　一	政策推進課主任	○